

昔に夢見てくれたお茶屋

自分に弱いところがある 劣等感だ

頭がよかつたう 人並み者夫が有り 何んが

少し羨しかつたう

そんな付若り時かろすうと思つてり

高校三年迄は 少し付頭もしい事と思つてり

大木知事てかろしと自信をなくして するど

将棋だ所しり勝に物理 奥深 と放棄する

とに石の石 つつり宮夜を話とやしてすう

たの石 大学へは無理 どうする 人五最部

のつ子ぶきだつた

東大の物学科 数学科にストして行く人も

いた 受験校だから人下でストしては逆者だ

みりやだつた ストしておちこんでしすう

た 小学校時代おつと級長をうとめ成績も上

信だつた そんなもの何んたう 逆に敵がよ

いといろ 鉛筆の中はりてりだ

何の手をうたすお茶としいすゆじゆめだめ

昔後へ移つた

その時 常林泡 にはなう 神屋がやろして

子ノ花の花

それから美答の道へすすみ 赤子のつまづき

赤子のつまづき 赤筆殿と持んぬきと来ん

赤筆殿ノつまづき だつておつと 刺れ

刺れと 一語にのびしと来ん 自分と 昔に家り

これれ花のけ 実の赤筆殿だつたの花

頭は身よりよこ どのひいきりけりて

美人に身を遠い てもそれうけりつと私と昔

たいた

人全自分とすうと昔にすむすつ 子や花の

たつた一人で 奇いから 今日まで生きて来ん

た

子ノ花の花

それから美答の道へすすみ 赤子のつまづき

赤子のつまづき 赤筆殿と持んぬきと来ん

赤筆殿へて大筆居りた だつておつと 刺し

刺しと 一語にのびしと来ん 自分と 昔に家り

これれ花のけ 実の赤筆感だつたの花

頭は身寄るよこ どのひいきめはみても

美人に身を遠い てもそれうけりつと私と昔

たいた

人全自分とすうと昔にすむすつ ありお花の

たつた一人で 奇いから 今日まで生きて来ん

た